

2024 年度 前期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設された。本会計大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本会計大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。このような理念に鑑み、私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎 Semester 終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として本会計大学院のウェブサイト¹で公開している。

私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、学生の主要な就職先となる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。この報告書の公開によって、本会計大学院の修了生が高い意欲をもって学習に取り組んでいることを示すことができると考えている。

また、私たちは、このアンケート実施報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見出し、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたい。現在、新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いたことで対面授業への移行が進むとともに、部分的にオンライン講義が活用される状態になっている。本アンケートの結果を踏まえて、今後の会計大学院の授業がさらに良いものに改善されていくことを願っている。

本会計大学院は2023年度に会計大学院評価機構による認証評価を受け、すべての基準に適合しているという評価を受けた。2023年度からは会計大学院 学部・大学院一貫教育プログラム（高度会計専門家養成）を開始し、体制の改善を行っている。新しいカリキュラム体系の確認と改善のために今回のアンケートの結果を活かしたいと考えている。

2024年10月

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

¹ <http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>

2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートの種類と配布期間・対象者は以下に示す通りである。

「会計大学院の授業に関するアンケート」(資料 1)

- ・前期講義実施期間：2024年7月5日（金）～2024年7月29日（月）
- ・連続講義実施期間：なし

※今学期は連続講義が存在しないため、連続講義に対する授業アンケートを実施していない。

上記期間中に、メーリングリストや担当教員からのアナウンスを通じて Google Form の URL を配布。

「会計大学院の授業に関するアンケート」は履修者が5名以上のプロジェクト調査・研究以外全ての科目を対象とし、学生は受講している講義ごとに回答を行っている。アンケートの回答は無記名とし、1学生につき各科目において1回限り回答できるよう設定している。

本報告書では、「会計大学院の授業に関するアンケート」の結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。なお、本報告書ではアンケートにより得られたデータを可能な限り定量的に分析したいと考えている。

「会計大学院の授業に関するアンケート」における科目毎のアンケートの集計結果と自由記入欄の記載内容は、担当教員に原文を直接報告している。2022年度からはアンケート結果に対する担当教員からのリプライを収集し、学内向けに公開している。また、2022年度前期には入学前の出身を示す設問、2022年度後期からは主な授業方法を示す設問を追加し、2023年度後期からは予習、復習、宿題に割く時間をそれぞれ回答させる設問を時間外学習に割く時間に関する設問にまとめるなど、アンケートの改善を図っている。ワークショップ委員会では、各教員がこれを通じて次年度以降の講義内容の充実に資することと期待している。

3. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

3.1. アンケートの実施状況

「会計大学院の授業に関するアンケート」は、前述の通り、履修者が5名以上のプロジェクト調査・研究以外全ての開講科目である29科目について実施された。今学期におけるアンケート実施科目と、過去4年分の授業アンケートの回答率をまとめると表1のようになる。今回のアンケートでは、述べ履修者数508名に対して289名から回答を得た。アンケートの回答率は56.89%である。他専攻、他部局の動向を考慮すると、回答率は一定の水準を確保しているものと考えられる。

	履修者数合計	回答数合計	回答率
2020 後期	393	181	46.06%
2021 前期	435	244	56.09%
2021 後期	443	234	52.82%
2022 前期	479	224	46.76%
2022 後期	465	193	41.51%
2023 前期	576	265	46.01%
2023 後期	433	181	41.80%
2024 前期	508	289	56.89%
今回の授業アンケートの対象科目名 財務会計1 財務会計3 企業評価 簿記1 簿記3 公会計2 IFRS2 管理会計2 原価計算1 事例研究(管理会計) 監査1 監査3 監査計画の編成法2 事例研究(監査制度) 経営管理 コーポレートファイナンス 2 統計学 計量経済 分析1 金融行政 I 企業法2 法人税法1 所得税法 企業開 示制度と実務 会計職業倫理 ビジネス・コミュニケーション1 ビジネス・コミュニケーション2			

表1：アンケート実施科目と回答率の推移

3.2. アンケートに関する基本統計量

表 2A は、設問 1、15、16 を除いて各設問の選択肢に好ましい回答ほど値が大きくなるような数値を設定したうえで、各設問の回答の分布と基本統計量（平均値、中央値、最頻値、標準偏差）を示している。なお、具体的なアンケートの内容については巻末資料 2 を参照されたい。

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	時間外学習	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格	入学前	受講方法
6	106	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	104	260	22	126	185	203	201	187	200	193	196	147	176	119	44	196
4	11	25	27	98	64	64	61	64	56	64	73	57	73	0	110	65
3	46	3	80	51	31	18	21	34	29	26	15	58	30	122	50	27
2	12	0	123	10	8	4	4	2	4	6	4	14	6	0	66	1
1	9	1	37	4	1	0	2	2	0	0	1	13	4	48	19	-
0	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	289	289	289	289	289	289	289	289	289	289	289	289	289	289	289	289
平均値	4.74	4.88	2.56	4.15	4.47	4.61	4.57	4.49	4.56	4.54	4.59	4.08	4.42	3.49	3.33	4.58
中央値	5	5	2	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3	4	5
最頻値	6	5	2	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3	4	5
標準偏差	1.39	0.41	1.07	0.92	0.82	0.67	0.75	0.78	0.73	0.74	0.69	1.14	0.86	1.44	1.17	0.67

表 2A：アンケートの基本統計量

表 2A にあるとおり、設問 4（理解）から設問 13（キャリア）にかけての授業の理解度や評価に関する設問では平均値がすべて 4 以上であり、中央値や最頻値もほぼすべてが最高評価の 5 である。この傾向は、過去数年のアンケート結果と大きな違いはない。設問 16（受講方法）にみられるように、講義方法は既に対面（5 は対面を意味する）が主流となっており、オンライン（4 はオンデマンド、3 はリアルタイムを意味する）が併用されている状態である。

ただし、学生が授業の予習、復習、宿題にかかる時間はあまり多くない状態がある。設問 3（時間外学習）では回答の半数以上で毎回の講義の予習・復習・宿題にかかる時間が、それぞれ 2 時間以下であることがわかる。過年度と同様に、継続的にこの課題の原因と対処する方法を検討する必要がある。その一方で、予習、復習、宿題にかかる時間をすべて合わせると、回答の半数弱が毎回 2 時間以上の学習時間をかけていることも確認できるため、時間外学習時間については改善傾向が見て取れる。

設問 1（属性）にあるように公認会計士コースの学生（5、6 は公認会計士コースの学生であることを意味する）が多く、設問 14（試験対策）からわかるとおりに本学の講義は資格試験等と関連する内容も含む。学生が別途取り組んでいる試験対策の学習とも重なる部分があることから、一概に学生の学習時間が不足しているとは解釈しにくい。とはいえ、会計大学院が提供する講義内容は試験対策に限らないことから、理解には一定の学習時間が必要と考えられる。

全体として、学生からの各講義に対する評価は高い水準にあるといえるものの、引き続き時間外学習にかかる時間を一定時間確保するように授業設計を工夫する必要があると考えられる。

対面

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	時間外 学習	理解	難易 度	教員 準備	プレ ゼン	教材	評価 方法	シラ バス	教員 評価	試験 対策	キャ リア	資格	入学 前	受講 方法
6	81	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	75	173	15	80	121	131	130	119	136	124	124	95	119	97	36	196
4	8	20	19	73	45	49	45	48	40	51	55	44	50	0	79	0
3	21	3	47	35	24	13	17	27	19	16	13	36	23	80	25	0
2	4	0	89	4	6	3	4	1	1	5	4	14	2	0	42	0
1	6	0	26	4	0	0	0	1	0	0	0	7	2	19	14	0
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	196
平均値	4.95	4.87	2.53	4.13	4.43	4.57	4.54	4.44	4.59	4.50	4.53	4.05	4.44	3.80	3.41	5.00

オンデマンド

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	時間外 学習	理解	難易 度	教員 準備	プレ ゼン	教材	評価 方法	シラ バス	教員 評価	試験 対策	キャ リア	資格	入学 前	受講 方法
6	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	18	61	4	31	46	53	51	51	47	50	52	39	40	16	6	0
4	2	3	5	19	13	8	9	8	9	8	11	11	17	0	20	65
3	21	0	23	11	4	4	4	5	6	7	2	14	5	31	19	0
2	3	0	27	4	2	0	0	1	3	0	0	0	2	0	16	0
1	3	1	6	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	18	4	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	65	65	65	65	65	65	65	65	65	65	65	65	65	65	65	65
平均値	4.28	4.89	2.60	4.18	4.58	4.75	4.68	4.68	4.54	4.66	4.77	4.34	4.43	2.94	3.12	4.00

リアルタイム

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	時間外 学習	理解	難易 度	教員 準備	プレ ゼン	教材	評価 方法	シラ バス	教員 評価	試験 対策	キャ リア	資格	入学 前	受講 方法
6	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	11	25	3	14	17	18	19	16	16	18	19	13	16	6	2	0
4	1	2	3	6	6	7	7	8	7	5	7	2	6	0	11	0
3	3	0	9	5	3	1	0	2	4	3	0	7	2	10	5	27
2	5	0	7	2	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	8	0
1	0	0	5	0	1	0	1	1	0	0	1	5	1	11	1	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
平均値	4.44	4.93	2.70	4.19	4.41	4.56	4.59	4.41	4.44	4.48	4.59	3.67	4.26	2.63	3.19	3.00

表 2B : 受講方法ごとの回答結果とその平均値

講義の開講形式（対面、オンデマンド、リアルタイム）がアンケート結果に及ぼす影響があるかどうかを確認するために、表 2B では設問 16（受講方法）の回答ごとに回答を集計し、その平均値を掲載している。3つの表を比較するといずれも差は小さいため、どの授業方法を採用したとしても授業評価は大きく変わらないといえる。そのため、授業方法が学習時間や授業評価に及ぼす影響は軽微であることが伺える。

3.3. 各設問間の相関

設問間の相関関係をみるために、表3を作成した。なお、設問1は回答者属性、設問17は入学前の所属、設問18は受講方法であり、相関係数の意味が乏しいため除外している。また、±0.50以上の相関係数については太字（色付き）にしている。設問16の資格については、より難易度の高い資格であるほど高いスコアとなるようになっている。

質問	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	出席	時間外学習	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格
2 出席	1.00												
3 時間外学習	0.01	1.00											
4 理解	0.04	-0.15	1.00										
5 難易度	-0.01	-0.13	0.59	1.00									
6 教員準備	0.11	-0.05	0.44	0.65	1.00								
7 プレゼン	0.00	0.04	0.33	0.61	0.73	1.00							
8 教材	0.04	-0.08	0.37	0.66	0.74	0.73	1.00						
9 評価方法	-0.03	-0.04	0.44	0.68	0.66	0.66	0.68	1.00					
10 シラバス	0.04	-0.05	0.46	0.65	0.72	0.67	0.74	0.75	1.00				
11 教員評価	0.04	0.01	0.40	0.68	0.80	0.77	0.81	0.71	0.78	1.00			
12 試験対策	-0.07	-0.11	0.37	0.51	0.39	0.40	0.41	0.46	0.46	0.42	1.00		
13 キャリア	0.03	-0.04	0.40	0.68	0.57	0.59	0.63	0.63	0.60	0.67	0.55	1.00	
14 資格	-0.07	-0.06	0.03	-0.13	-0.10	-0.12	-0.16	-0.09	-0.14	-0.16	-0.03	-0.03	1.00

表3：設問間の相関関係

各設問は、概ね、学習時間に関する項目（設問3～5）、授業評価に関する項目（設問6～13）、学生の将来につながる授業かどうかに関する項目（設問14、15）に分けることができる。

まず、学生の時間外における学習時間（設問3）に注目する。学習時間（設問3）と授業評価（設問4～11）または将来との関連性（設問12, 13）との相関はほとんどない。そのため、表2Aに見られた時間外学習の少なさが、講義の難易度、理解水準、将来に対する有用性の低下につながっている傾向は見られない。

次に、授業評価に関連した、理解（設問4）、授業の難易度（設問5）、教員の準備（設問6）、プレゼン（設問7）、教材（設問8）、評価方法（設問9）、シラバス（設問10）、教員評価（設問11）に着目する。従来と同様の傾向であるが、これらの設問間では高い正の相関が観察されることから、適切な難易度設計や評価方法、シラバスに始まる十分な準備やプレゼン・教材の設定、高い教員評価は、それぞれが密接に関係し、相乗的な効果を持つものと理解できる。ただし、今学期においては、理解と他の授業評価の項目の間の相関がやや弱まっている。全体的な授業評価が好調であることから、難易度設定以外に学生の理解度に影響する要素が少なくなっている可能性もあるが、この傾向が一時的かどうかはやや注視すべき点かもしれない。

続いて、試験対策（設問12）とキャリア（設問13）という、将来の進路に関する有用性に着目する。いずれも授業評価（設問4～11）と正の相関を持つが、全体として試験対策（設問12）よりもキ

キャリア（設問 13）の方が、強い関係が観察される。本学では、学術研究の動向や会計実務に基づく知識、倫理や英語教育など、会計士試験と直結しなくとも長期的な視点で学生の将来に有用となる講義を開講している。将来のキャリアに役立つ授業であるほど授業評価も高いことから、そのような内容の重要性が高まっていることが読み取れる。

また、設問 14（資格）については、他の設問との相関が特に観察されていない。全体的な授業評価が好調であることを踏まえると、保有している資格にかかわらず適切な授業を実施できていると判断できる。

これらの傾向はおおむね、過去と同様である。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院 WEB サイトを参照されたい²。

3.5. 自由記入欄の意見について

「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄については、科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、考慮すべき意見については改善につなげるよう依頼している。

また、担当科目の授業アンケートの結果に対するリプライを各教員に依頼し、その結果をまとめて学生に開示している。こうした授業アンケートに関する学生と教員間のコミュニケーションを通じて、授業アンケートの結果がさらに授業に活かされることを期待している。

4. 結び

2024 年度前期における「会計大学院の授業に関するアンケート」の集計結果を踏まえると、本会計大学院の授業は、総合して良好な評価を得たと考えられる。

本会計大学院が抱える課題については、学生の学習時間の確保である。近年では徐々に時間外学習の時間が確保される傾向にあるものの、各科目の毎回の講義における時間外学習時間は、それぞれ 2 時間以下と回答している学生が比較的多い。個々の授業の設計は各教員の裁量に委ねるところであるが、学生の学習時間がきちんと確保されるように継続して工夫する必要があると考える。

最後に、アンケートに真摯に取り組んでいただいた学生各位に感謝を申し上げる。

² <http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>

資料 1：2024 年度前期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果を報告書として公表致します。東北大 ID が必要となります。

授業担当者には誰がどのような回答したのかについての情報は一切公表せず、集計された結果のみを伝達します。ただし、自由記述については原則として原文のまま担当者に伝達します。

回答者属性

番号	質問	回答	
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(6)公認会計士コース(2年) (5)公認会計士コース(1年) (4)会計リサーチコース (3)ビジネスアカウンティングコース	(2)経済経営学専攻 (1)経済学部 (0)その他

科目内容について

番号	質問	回答
2	この授業にどのくらい出席しましたか？ (おおよその出席率で回答して下さい。)	(5)90%以上 (4)89-70% (3)69-50% (2)49-20% (1)20%未満
3	この授業に係る授業時間外の学習に平均して毎回、どのくらいの時間をかけましたか？（予習、復習、宿題、課題等をすべて合計して回答してください）	(5)5 時間以上 (4)4-5 時間 (3)3-4 時間 (2)2-3 時間 (1)1-2 時間 (0)1 時間未満
4	この授業の内容をどの程度理解できましたか？	(5)理解できた (4)ほぼ理解できた (3)どちらともいえない (2)あまり理解できなかった (1)理解できなかった
5	この授業の難易度は会計大学院の授業として適切だと思いますか？	(5)適切である (4)ほぼ適切である (3)どちらともいえない (2)やや不適切である (1)不適切である
6	教員のこの授業に対する準備は十分でしたか？	(5)十分だった (4)ほぼ十分だった (3)どちらともいえない (2)やや不十分だった (1)不十分だった
7	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5)十分だった (4)ほぼ十分だった (3)どちらともいえない (2)やや不十分だった (1)不十分だった

番号	質問	回答
8	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5)適切である (4)ほぼ適切である (3)どちらともいえない (2)やや不適切である (1)不適切である
9	この授業の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5)適切である (4)ほぼ適切である (3)どちらともいえない (2)やや不適切である (1)不適切である
10	この授業のシラバスは授業を理解する上で役に立ちましたか？	(5)役に立った (4)まあまあ役に立った (3)どちらともいえない (2)あまり役に立たなかった (1)役に立たなかった
11	総合的に見て、この授業における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5)評価できる (4)まあまあ評価できる (3)どちらともいえない (2)あまり評価できない (1)評価できない
12	この授業は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5)役立つ (4)まあまあ役に立つ (3)どちらともいえない (2)あまり役に立たない (1)役に立たない
13	この授業は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5)役立つ (4)まあまあ役に立つ (3)どちらともいえない (2)あまり役に立たない (1)役に立たない
14	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 or 公認会計士短答式・論文式 or 日商簿記1級 (3)日商簿記2級 (1) 上記について無し
15	会計大学院に入る前の所属について、適切なものにチェックしてください。	(5)東北大学経済学部 (4) 東北大学の経済学部以外に所属、あるいは他大学に所属 (3) 社会人として勤務 (2)留学生 (1)その他
16	この授業の主な受講方法を選択してください。	(4)対面 (3)オンデマンド (2)リアルタイム (1)その他

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

※今年度のアンケートは Google Form で実施しています。表示形式は異なりますが、設問・選択肢は記載の通りです。

資料2：2024年度前期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース(2年)	106	36.68%
	公認会計士コース(1年)	104	35.99%
	会計リサーチコース	11	3.81%
	ビジネスアカウンティングコース	46	15.92%
	経済経営学専攻	12	4.15%
	経済学部	9	3.11%
	その他	1	0.35%
	合計	289	100.00%
設問2 この講義にどのくらい参加しましたか.	90%以上	260	89.97%
	89-70%	25	8.65%
	69-50%	3	1.04%
	49-20%	0	0.00%
	20%未満	1	0.35%
	合計	289	100.00%
設問3 この講義の時間外学習に平均して毎回、どのくらいの時間をかけましたか.	4時間以上	22	7.61%
	3-4時間	27	9.34%
	2-3時間	80	27.68%
	1-2時間	123	42.56%
	1時間未満	37	12.80%
	合計	289	100.00%
設問4 この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか.	理解できた	126	43.60%
	ほぼ理解できた	98	33.91%
	どちらともいえない	51	17.65%
	あまり理解できなかった	10	3.46%
	理解できなかった	4	1.38%
	合計	289	100.00%
設問5 この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか.	適切	185	64.01%
	ほぼ適切	64	22.15%
	どちらともいえない	31	10.73%
	やや不適切	8	2.77%
	不適切	1	0.35%
	合計	289	100.00%
設問6 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか.	十分	203	70.24%
	ほぼ十分	64	22.15%
	どちらともいえない	18	6.23%
	やや不十分	4	1.38%
	不十分	0	0.00%
	合計	289	100.00%
設問7 教員の説明や声量など、教室でのプレゼンテーションは良好でしたか.	十分	201	69.55%
	ほぼ十分	61	21.11%
	どちらともいえない	21	7.27%
	やや不十分	4	1.38%
	不十分	2	0.69%
	合計	289	100.00%
設問8 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか.	適切	187	64.71%
	ほぼ適切	64	22.15%
	どちらともいえない	34	11.76%
	やや不適切	2	0.69%
	不適切	2	0.69%
	合計	289	100.00%

設問9 この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか.	適切	200	69.20%
	ほぼ適切	56	19.38%
	どちらともいえない	29	10.03%
	やや不適切	4	1.38%
	不適切	0	0.00%
	合計	289	100.00%
設問10 この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか.	役に立った	193	66.78%
	まあまあ役に立った	64	22.15%
	どちらともいえない	26	9.00%
	あまり役に立たなかった	6	2.08%
	役に立たなかった	0	0.00%
	合計	289	100.00%
設問11 総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか.	評価できる	196	67.82%
	まあまあ評価できる	73	25.26%
	どちらともいえない	15	5.19%
	あまり評価できない	4	1.38%
	評価できない	1	0.35%
	合計	289	100.00%
設問12 この講義は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか.	役立つ	147	50.87%
	まあまあ役立つ	57	19.72%
	どちらともいえない	58	20.07%
	あまり役に立たない	14	4.84%
	役に立たない	13	4.50%
	合計	289	100.00%
設問13 この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか.	役立つ	176	60.90%
	まあまあ役立つ	73	25.26%
	どちらともいえない	30	10.38%
	あまり役に立たない	6	2.08%
	役に立たない	4	1.38%
	合計	289	100.00%
設問14 既に合格している資格試験等を選んで下さい.	税理士会計科目 or 公認会計士短答式・論文式 or 日商	119	41.18%
	日商簿記2級	122	42.21%
	上記について無し	48	16.61%
	合計	289	100.00%
設問15 会計大学院に入る前の所属について、適切なものにチェックしてください.	東北大学経済学部にも所属	44	15.22%
	東北大学の経済学部以外に所属、あるいは他大生	110	38.06%
	社会人として勤務	50	17.30%
	留学生	66	22.84%
	その他	19	6.57%
	合計	289	100.00%
設問16 この授業の主な受講方法を選択してください.	対面	196	67.82%
	オンデマンド	65	22.49%
	リアルタイム	27	9.34%
	その他	1	0.35%
	合計	289	100.00%

「注」設問の文言は本来のものと若干異なります。

2024 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長
委員

吉永 裕登
荻原 啓佑

会計大学院アンケート実施報告書 2024 年度前期

2024 年 10 月発行

編集・発行：東北大学会計大学院ワークショップ委員会